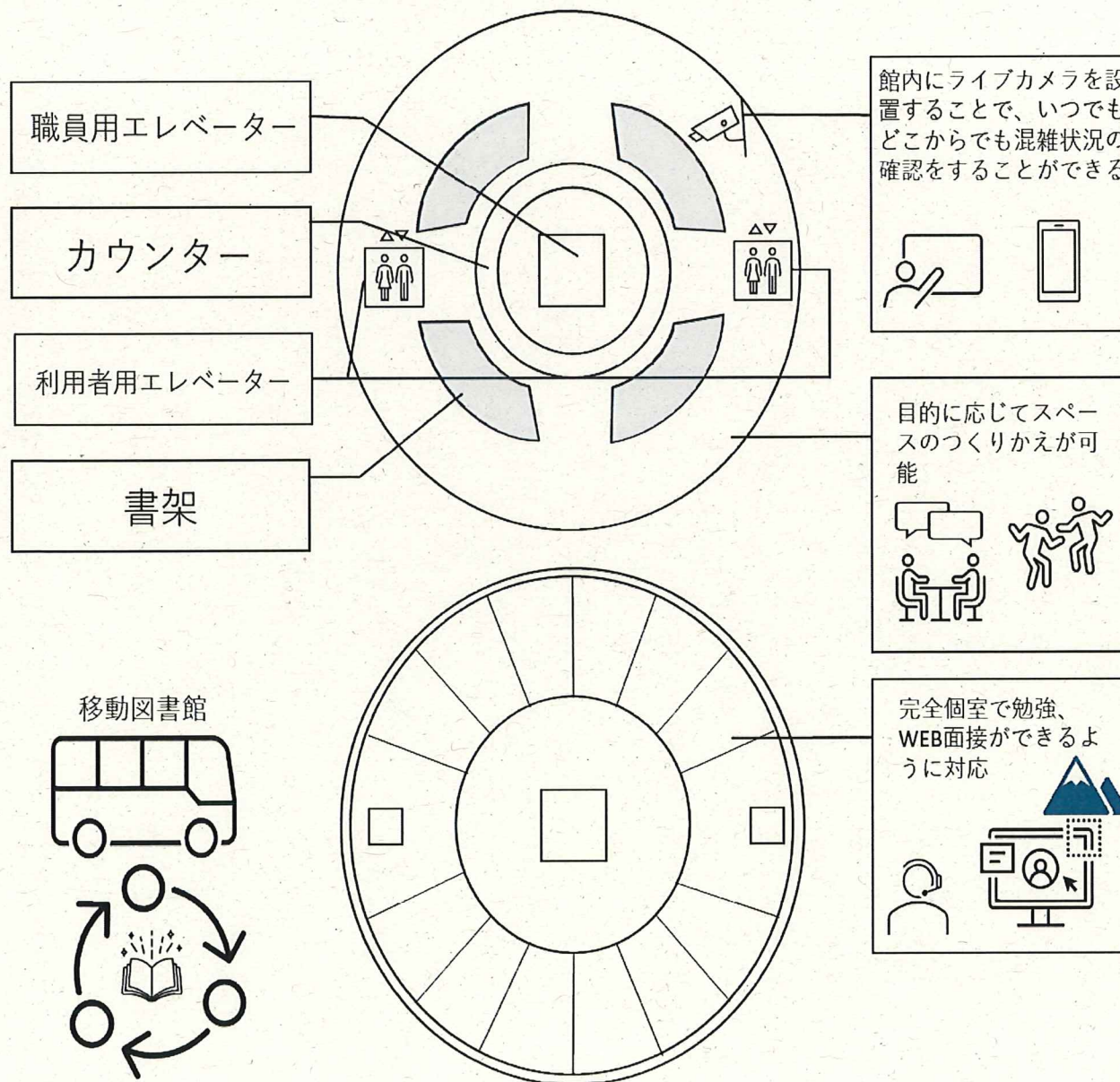
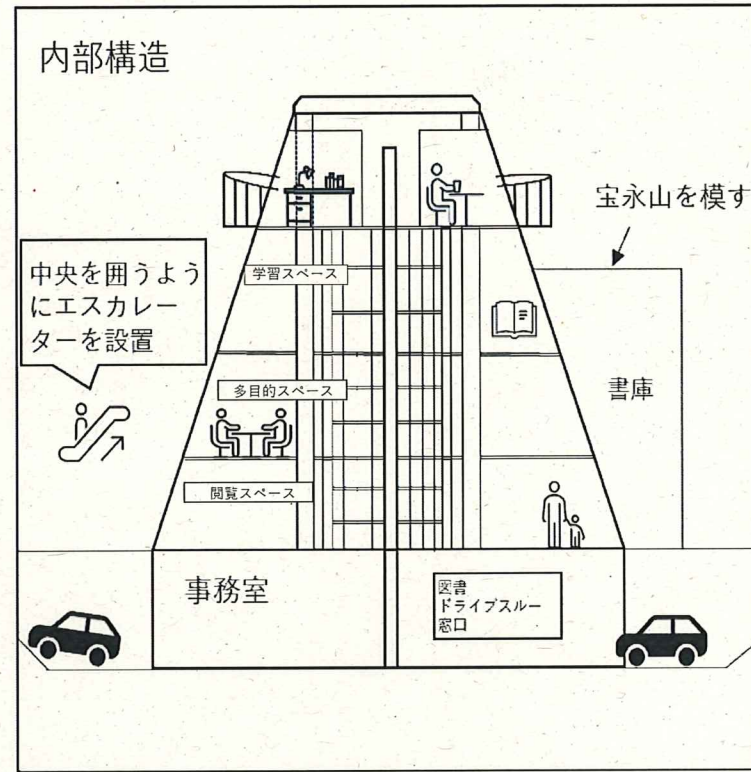
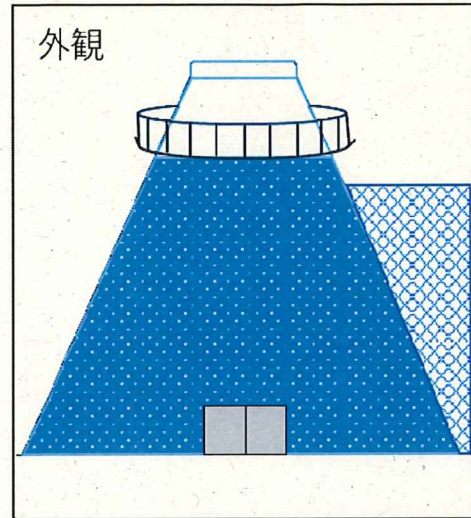


「距離を問わずに利用できる  
ランドマーク図書館」



### 1. はじめに

県立中央図書館は県民すべてに開かれるべき施設だが、広い静岡県の大半の県民にとっては「遠い」「わざわざ行く場所」である。その壁を解消し、図書館が「県の図書館」となるためには、「遠くに住んでいても利用できること」「遠くからでも行きたいと思えること」が必要である。

### 2. ランドマーク面の提案「富士山の形をした図書館」

まず、図書館を富士山型にして静岡県のランドマークになることを提案する。立地をいかした富士山と図書館の「ダブル富士」や、上階に作った展望室に富士山に関する郷土資料を集めるなどの工夫で「一目見たい」と思わせ、図書館利用のきっかけを増やせるはずである。なお、富士山を綺麗に見るためには、周辺の建物より背の高い建築が望ましい。

見た目以外の利点もある。まず末広がり円形のいかし、中央に円柱型の書架、周囲に各種閲覧スペースを設けることを提案する。書架中に職員用エレベーターを通し、内側から書架整理を行うことで利用者と職員の必要以上の接触を減らすことが可能である。広い閲覧スペースにはお喋りができる箇所や集中したい人用の個室など様々なものを用意することで、利用者の異なる需要に対応できる。組み合わせやすい形の机を採用し、利用者の人数への柔軟性があるとより良い。また、個室でZOOMなどが行えるとコロナ禍でのweb面接需要にも応えられるだろう。他にも、狭い上階に専門的な資料を配すことで自然と利用者の棲み分けを行うことが可能である。屋上には芝生のスペースを設け、晴れた日にはお話を開いてもいいだろう。貸出返却にドライブスルーを用いるという提案もしたい。貸出返却だけの利用で駐車場を使うことは回転率を悪くするため、地下に設けた事務室の横に道路を通し、返却や予約した図書の貸出を行えばより多くの人が効率的に図書館を利用できるはずである。

### 3. 距離面の提案①：訪れなくても利用できる図書館

図書館HPからストリートビューのように館内を閲覧(できればリアルタイム)できる機能があると望ましい。これにより距離が関係なく、全国から県立中央図書館へ「行く」ことが可能である。昨今の情勢にも適しているし、「遠くから来たけどイメージと違った」「障害者対応のスペースがあるか事前に知りたい」という事態にも対応できる。また、来館前に欲しい本がある場所を(棚番号だけでない実際の景色で)確認したり、使いたいスペースが混んでいるから時間をずらしたりなど、利用者が目的に合わせて臨機応変な利用ができる。他にもリアルタイム通話で図書をめくってもらえる(図書館員がめくるにしろページめくり機を用いるにせよ、予約制が望ましい)サービスがあれば、遠方からでも資料が読めるはずである。図書館を離れた提案としては、県内すべてを巡る「移動図書館車」や県内すべての公共図書館の1棚程度を使った「ミニ分館」を設けることで県内すべての人が図書館の資料に触れられ、その接触を通して「図書館を訪れたい」という利用のきっかけを与えられるのではないだろうか。

### 4. 距離面の提案②：遠くから訪れた利用者への配慮

県立中央図書館には資料も多く、遠方から来た場合1日で回りきることは難しい。ゆえに、月に数度でも「泊まれる図書館」として施設を24時間開放することで県内ほか、全国からの利用が増えるのではないだろうか。利便性のほか、唯一性・話題性においても集客が見込める。利用者に寝袋などを持ち込んでもらったり、飲食可スペースへの持ち込みを許可したりすれば図書館の負担を減らすこともできるだろう。

以上が我々の「新 静岡県立中央図書館」に対する提案である。